(17)　漂砂地帯に流入する河川の河口調査に就いて
（千代川河口調査を中心にして）

建設省鳥取工事々務所　石黒　勲

（要旨）

漂砂地帯に流入する河川に於いて河口改修計画を設定する為の調査はその対象となる要素が風、波、流（河川流、海流、潮流）及び常に変動して居る地盤等である。従つて河口における諸変化はその原因と結果とが相互的に仍きかけ、その実態を充分に認識する事が困難である。

本論はかゝる條件に置かれて居る千代川河口を主題とした河口調査の実績とその方法に就いて述べ様とするものである。従来河口処理に関する問題は多くの人に取り上げられて来て居るがその凡てが独立した物理的現象に対し解決を与へて居るもので此れ等、諸現象を一元的に調査し実際河川の改修計画に採用されたものではない。

千代川は鳥取砂丘を通り日本海に流入して居る為、その河口は漂砂式は砂に依つて絶へず浸かされ河口流下断面の不足を招来し、洪水の疎通が困難となるのみならず河口部賀露港の生命も半減する状態に於かれて居るので此れが根本策として試験誘導水路の試案をなし洪水の合理的流出を吟味し再に河口断面の維持に就いて調査したもので本調査は実験室に於ける作業を現場に移し河口改修工事と関連せしめて実施したものと云えよう。

一般的問題としてかゝる調査は長期にわたり実施されるものであり且つ多額の費用を必要とするものであるから適確な調査計画と調査資料の整理について充分の考慮を拂はねばならない。

従つて千代川を実例とする調所河口調査の方法論に就いて述べる。